



令和2年8月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

## マダイの中間育成が終了・放流へ

静岡県内では、人工的に育てたマダイの稚魚を放流して資源を増やす栽培漁業が毎年行われています。

西伊豆町田子では6月9日に22.5万尾、熱海市網代では6月10日に40.5万尾のマダイ稚魚が海上の生簀へ搬入され、放流に適した大きさまで育てるための中間育成が行われてきました。

約40日の中間育成により、体長が20mm程度だった稚魚は60mm以上に成長したため、田子では7月20日、網代では7月21日に放流数を調べるための計数作業が行われました。田子の生育は順調そのもので生残率87%、網代では病気が発生しましたが生残率74%と、いずれも3年連続で目標の70%を上回る結果となりました。これらのマダイは、伊豆の各地先で放流適地である港内などへ放流されます。



田子の計数作業の様子  
※コロナ対策の為、フェイスシールド着用

放流されるマダイ稚魚



解説：栽培漁業は、生残が悪い卵から稚魚までの間を人間が育てた後、自然へ戻して、成長したものを漁獲することで資源を持続的に利用することです。静岡県ではマダイ、ヒラメ、アワビなどが対象となっています。

## 研究課題の要望聞き取り

日頃、漁業関係者の皆さんが困っている課題や問題を聞き取って今後の研究開発による問題解決に繋げるために、初島から土肥までの範囲で研究要望の聞き取りを行いました。

近年問題となっている磯焼け対策、磯根漁業の対象となる海藻や貝類の減少問題や、キンメダイなどの水産資源の減少に対する対策などの要望が多く寄せられました。すぐに解決できることは少ないのですが、一歩一歩取り組んでいきたいと思えます。



カジメの磯焼け

キンメダイ資源の回復

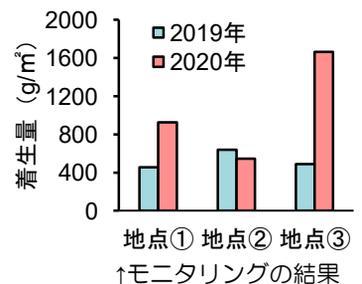
## 稲取でテングサ藻場の雑藻刈り活動

伊豆漁協稲取支所では、水産多面的機能発揮対策事業を活用し、テングサ藻場の保全活動に取り組んできました。活動は、地元のダイバーがテングサ以外の雑海藻を刈り取るというものです。

今年の潜水作業は6月に3地点で計9回行われ、雑藻刈りおよび効果のモニタリングが実施されました。モニタリング結果の詳細は集計中ですが、活動地点によってはテングサの着生量が昨年より増加していました。



↑雑海藻を刈り取るダイバー



**8月の予定** ●8/19に県民の日イベントとして親子水産教室を開催します。●夏～秋の定置網漁海況予測を発表します。●引き続きキンメダイの親魚採捕を行います。

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu

会場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。